

産業専門委員会での意見と各分野政策項目との関係表

資料4-1

①挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備	項目
鶴岡市の農業産出額は全国26位とすごいが、人口減少するので10年後に何位になるか心配。農業産出額の維持、拡大が必要。	4(2)ア、イ
農業は経済的満足度が弱い。どうしても冬場の所得をキープすることが大変苦しい。また、加工分野に回しても、加工原料は、驚く価格で引き取られるというシビアな状況である。	4(2)イ 4(3)ア
輸出米をマレーシアに送っている。日本国内で売るより安い、日本の人口が減るので、可能性を海外に求めることもこれから必要なこと。個人ではできないことで、組織で農産物の輸出のサポートをしてもらいたい。	4(3)ア
漁業者の新規就業者を受け入れるための宿泊研修施設が必要である。	4(5)ア
近年の漁船の大型化に対応した漁港の整備が必要である。	4(5)ア
チャレンジショップや店舗を借りて新しく起業されている方々を良く見かける。新しく事業を始める場合の开店資金に対して支援する仕組みがあると良い。また、起業後の状況について調査することも必要である。	5(3)イ
起業や新規出店された方々を応援する意味でも、新しいものに対して市民のマインドをくすぐるような施策が必要である。	5(3)イ
鶴岡の魅力をどういった形で発信していくのか、最終的には定住してもらうという形のものがつくれないか。	⇒企画
農林水産部門と商工観光部門が、それぞれ孤立しているように感じる。豊富な資源を有効活用して起業する人たちを支援できる制度を設けたら良い。	4(3)イ 5(1)ウ
循環型農業とブランド化は同じではないと思う。本来の鶴岡に合ったものを検討してほしい。	4(2)ア
魅力ある農業はどうあるべきか、若者が定着できる農業はどうあるべきかという部分で、地域で生活していくには農家で生計を立てて農家所得を向上するということが大事と思う。そこを強調してもらいたいし、それに対する施策を強調してほしい。	4(2)ア、イ
担い手育成は重要だが、企業を支援していくことも必要。独立して農業を何人かで経営している団体もある。そこで担い手を支援して起業につなげるのが、なおよい。	4(1)イ
鶴岡の専業林業者はゼロではないかと思う。鶴岡の人工林20,500haのうち、8割超が利用できる状態になっている。国で森林管理法が制定され、来年から交付金が出る。経済ベースで利用できない森林の管理に使うことができる。森林所有者の関心が低いということだが、所有者に還元すれば関心が出てくる。	4(4)ア
木材を出すためには道が足りない、架線を利用する技術も必要。木材生産の効率化について、機械化しないと外材と競争できない。事業体の育成も急務。ビジョンをきちんと記載してほしい。	4(4)ア

<p>稲作から高収益作物に誘導するなかで補助金を活用してというのがあったが、補助金で作らせるのではなく農業者自らが高収益だから作りたいと考えてもらうようにしたほうがよい。</p>	4(2)イ
<p>エネルギーの創出に関連し、再生可能エネルギーの有効活用が太陽光、小水力などで推進されている。鶴岡市でも小水力発電が稼働している。電気を売却した収入を水路等維持管理費に充当して農家の負担を軽減し、最終的に生産コストの削減につながっている。鶴岡には小水力に限らず有効活用できる資源があると思うので、ぜひこういった取組みも支援を検討していただきたい。</p>	⇒市民文教

②人づくりによる人材の確保	項目
<p>新規就農者や若い農業者をどう誘導してくのか。</p>	4(1)ア
<p>生産組合が機能していた頃は、集落機能がしっかりしていた。地域を守るといふ姿勢が見られたが、今は受委託が進み農業者がいなくなり、じいさん、ばあさんしかいない村が多くなり、集落営農をしてもリーダーがいない。</p>	4(1)ア
<p>鶴岡に戻りたくなるような、住みたくなるような構想や施策が必要である。鶴岡で就職をしたい、農業をしたいと思うような構想が無いと人口減少の歯止めにつながらない。若年層、子どものうちから何らかの仕掛けが必要である。</p>	4(1)ア
<p>農業だけでは通年雇用できないという難しい問題がある。それを農商工が連携して、外部から来た若者やリタイアした方を雇用し永住に繋げる取組みが必要である。</p>	4(1)ウ
<p>労働力が減り、人がいないという非常に悲しい現状がある。例えば、庄内はメロンの大産地であるが、生産量の減少が懸念されている。メロンの需要は高いが、高齢化で生産拡大をやってくれる方を発掘できない。</p>	4(1)ウ
<p>人口減少対策、労働力確保に繋げるため、皆で知恵を出して、よそから人を連れてくるような取組みを考えなければならない。</p>	4(1)ウ
<p>小規模事業所が減っているのは、鶴岡の商売は成り立たない。経営を継続し承継していくことが必要である。</p>	5(1)エ
<p>鶴岡に戻りたくなるような、住みたくなるような構想や施策が必要である。鶴岡で就職をしたい、農業をしたいと思うような構想が無いと人口減少の歯止めにつながらない。若年層、子どものうちから何らかの仕掛けが必要である。 (再掲)</p>	5(3)ア
<p>人口減少対策、労働力確保に繋げるため、皆で知恵を出して、よそから人を連れてくるような取組みを考えなければならない。(再掲)</p>	5(3)ア
<p>出羽商工会では海外からの働き手を募集しており、今後、人材不足の課題が海外の働き手によって少しずつ改善されていく。</p>	5(3)ウ

<p>人材確保については、地域内の高校生が県外に出ていくといった問題点が非常に大きい。仮に鶴岡に中高一貫校ができた場合、県外への進学者が増え、さらに域外流出の可能性が高くなるリスクを抱えることになる。工業高校や水産高校等の専業高校を守っていくことも一つの策として必要である。教育機関の在り方も検討が必要である。</p>	⇒市民文教
<p>林業の分野についても、将来的に少子高齢化の影響が出てくるものと懸念される。外国人雇用も検討していかなければならないと思っている。</p>	4(4)ア
<p>新たに養豚業を始めたいという意思を持った生産者がいるが、新規に始めるには非常に厳しい環境になっている。これをどうにか行政主導でできないのか。JAでも課題となっている。</p>	4(2)ウ
<p>出羽商工会では、ベトナムからの技能実習生の受け入れを計画している。今後、製造業や建設業、個人事業までの受け入れが進めば、定着にもつながり、人口増加対策にもなる。</p>	5(3)ウ
<p>出羽商工会青年部では、これから10年、20年先を見据え小中学生を対象にした職場体験を行っている。今後も、地域での起業や地元就職の意識を持つきっかけとなる事業を行っていききたい。</p>	5(3)ア
<p>農業の担い手を育成していかななくてはならない。農家の息子など今いる人間を地域に残して農村を盛り上げていくのが基本方針だと思う。</p>	4(1)ア
<p>企業的経営体を育成するというのは国に施策そのままだが果たしてそれでいいのかを省みる必要がある。農地を集積することで農業者を排除することにもなりうる。鶴岡市は中山間が多く、人口減少に拍車をかけてしまうのではないかと。鶴岡ならではの振興は、平野部は平野部としての多様な担い手、中山間は中山間の多様な担い手がいて商工と連携するのが良いと思う。</p>	4(1)ア 4(1)イ
<p>人材育成について、人・農地プランを地域で有効に活用したら、これからの農業後継者を出せる。</p>	4(1)イ
<p>人材育成については域外の前に地域内の担い手育成のほうが大事だと思う。</p>	4(1)ア
<p>農家になっても所得が少なく大変、リスクがあるということになりづらい方が多い。農家になって所得を上げたり、やりがいがあったり、食べたいというお客様がいたりすることで農家になりたいという人材確保につながる。そこを考えながら農業従事者を増やしていくことが必要だと思う。</p>	4(1)ア
<p>鳥獣被害については、猟友会の担い手育成もあつたほうがよい。イノシシ等ジビエの加工販売に関する政策もあつたほうがよい。</p>	4(2)エ

③交流人口を増やす施策の実施	項目
<p>地域とお客様の視点を客観的に調査し、データに基づいてこれから先の鶴岡の観光のことを考えていかななくてはならない。</p>	5(5)ア

外国人観光客のほか、関東圏、北海道からの観光客に対し、日帰りから宿泊に繋げるために、温泉組合などと協力し食や宿泊の情報を提供する施策が必要である。	5(5)ウ
調査では、羽黒山に行った人は4、5カ所周遊しているが、加茂水族館は一点目的型で、日帰り客の多くが市内で食事をしておらず、他市に流れている可能性が考えられる。	5(5)イ
観光の現場で個人が努力した成功例、また、失敗例もあり、いろいろな人たちで情報交換し、戦略を一緒に練っていく場、行政・地元・事業者などの立場から現場感覚で話ができる場、意見を吸い上げる場があればと思う。	5(5)ウ
山間部の遠い場所など、マイカーでしか行けない観光資源は、外国人観光客や運転しない人からは見逃されてしまうことになり、二次交通が観光の多様性に決定的な意味を持っている。	5(5)イ
観光の面で、市内旅館の漁業体験が好評だと聞いているが、コマーシャル不足だと感じている。	5(5)イ
これからの観光振興や産業振興を考えた場合、「期待の持てるところに投資を集中させる」ということも考えられるが、行政としては、見逃されてしまう業種や個人に対しても手当していかなければならない。	5(5)ウ
観光資源のパンフレットが数多くあるが、ほぼ内容は同じである。また、小さな、あるいは可能性がある資源が見落とされていると感じている。これから磨き上げたら伸びるものが何か、UIJ ターンされた方や、外国人、旅行者等の目線も必要である。	5(5)イ
まちの価値を高めようと地域の方を巻き込んで観光振興を考えなければならない。見逃されているような観光資源を発掘するためにも、地域の方の視点を取り入れていく必要があると思う。	5(5)ウ
新潟とつながる高速道路のインターに海の物を扱う商業施設が出来れば、県漁協は力になりたいと考えている。他市町よりも先にしっかりしたものを考えて作れば、鶴岡の集客が増える。	⇒社会基盤
クルーズ船が酒田港に寄港するが、その乗客の多くが鶴岡の観光地を訪れている。乗客に対して重点的にPRすることを考えてみたらどうか。	5(5)オ
湯殿山、羽黒山、鶴岡駅を結ぶシャトルバスの運行はとても喜ばれている。反面、運行されていない日や運行スケジュールの関係で不便がある日については、利用客の不満が大きい。	5(5)イ
予算の関係で、今後どうなるのか分からないでは、外国人観光客の誘客は厳しい。観光情報は早く出していただきたいし、政策や事業は継続性を重要視していただきたい。	5(5)ア
観光地の魅力づくりが大事である。観光客が訪れることによって、地元住民や観光従事者の経済が潤い、幸福度が高まる。地域の人を巻き込んだ形での観光地づくりという視点があってもいい。	5(5)ウ

観光ニーズが多様化していることから、ある特定のものを取り上げるのではなく、間口を広くして、行った場所で深めていただけるように、多様性や多層性を常に意識してやっていかなければならない。	5(5)エ
---	-------

④若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築	項目
何をすれば若者がこの地域に住み、子供を産むようになるのかを検討しなければならない。	⇒企画

⑤内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承	項目
自然と文化こそがオンリーワンであり、美田、棚田を守る、または森林を守る、美しい形を維持するということが心の、精神的な満足度につながるのではないか。産業も大事であるが、心の満足度という観点で計画を作ってはどうか。	4(2)エ 4(4)ウ
サムライシルクの松ヶ岡の注目度が今は低い、鶴岡の中でも特徴を出していける目玉となる可能性をもった資源である。まだ十分に活用しきれていない。ブラッシュアップして、様々な施策の中に取り込んでいくことが求められる資源ではないか。	⇒企画 5(1)ウ 5(5)ウ

⑥「循環」をキーワードとして重視	項目
鶴岡は、米、メロン、だだちゃ豆以外の農産物は消費地。自給圏を作るというプランを出して農協と行政がタッグを組んでやるとか、産直の先の話のことも内部循環という視点でものを考えると、鶴岡市や市場のデータを使って組み入れてみるとか、検討された情報を頂ければ我々も勉強になると思う。	4(3)ア
循環という言葉があるが、やはり、経済の内部循環が必要であるだろうと思う。経済的な循環がしっかり構築できるようになればと思っている。	4(3)イ
循環という言葉があるが、やはり、経済の内部循環が必要であるだろうと思う。経済的な循環がしっかり構築できるようになればと思っている。(再掲)	5(1)エ
経済の循環という市民が地域にお金を落とす仕組みを作っていくべき。	5(1)エ
地産地消を行政でも後押しして進めていただきたい。それが、企業、農家を含めて消費拡大に大きくつながる。	4(3)イ
地元の消費者と結ぶところが弱い。ブランド化されていても地域内には行き渡っていないものも多い。生産者と地元の消費者を結ぶ商店や販売方法に手を入れずに域外にばかりブランドを出そうとすると、地元の人が食べていない商品、地域から離れた産業になってしまう。	4(3)イ

⑦対応から本格的国際都市へのシフト	項目
インバウンドを踏まえた国際化へのシフトが必要である。	5(5)オ
国際社会や国際都市を目指す上で、外国の方が鶴岡市を訪れた際に、英語での情報が無いという声がある。市ホームページの英語化率を数値目標として設定するなど検証することもできる。	5(5)オ
鶴岡の情報発信ができていない。外国人観光客が鶴岡までたどり着くことができないとの話がある。様々なメディアを使ったPR、鶴岡の目立つところを情報発信するなどの工夫が必要だと考える。	5(5)オ
英語での観光案内や鶴岡市の紹介が重要になってくる。これから数値目標を設定していく中で、早めの対応と優先順位も意識的に考えてほしい。	5(5)オ

⑧コンパクト+ネットワーク中山間による自立分散型社会の実現	項目
中山間地域での新規就農者は1名となっている。中山間地域で農業を続けられる政策があると良い。	4(2)エ
鶴岡全体も大切ではあるが、自らの地域からしっかり考えていかなければならない。コンパクトな地域がネットワークでつながることで鶴岡の個性を作っていくものであると考える。	⇒企画

⑨オンリーワンを目指すプロジェクトの実施	項目
庄内産の魚のブランド化を進める。	4(5)イ
魚の冷凍設備を導入し、年間を通じて安定供給できる体制整備が必要である。	4(5)イ
ユネスコ食文化創造都市として、他の都市にないオンリーワンのプロジェクト、ブランド力が鶴岡市にはある。	⇒企画
鶴岡市の今後の産業振興において、観光と食文化が重要になってくるということが施策の中で色濃く出ている。その方向性で進めていくべき。	5(5)イ
ブランド化に関しては、櫛引地域の宝谷では基盤整備事業がスタートしている。この地域ではそばの生産・販売・体験学習にも積極的に取り組んでいる。基盤整備の後、さらなるそばの生産拡大につとめている。ブランド化は高収益作物とつながると思うのでJAと連携してやっていく必要がある。	4(3)ア
ブランド作りについては、山形セレクションでは、トップが変わって考え方が大きく変わってしまった。GIについては、トップが変わっても考え方が変わってしまう可能性があるため、そうではなく第三者機関、学術機関なり地域の方々なりを主体とした組織を作っていく必要があると思う。行政は支援していく立場が望ましい。	4(3)ア

<p>実際にブランドを作ることまでは農業者でできるが、売ることが重要で、販路拡大の文面が抽象的。販路拡大に行政がどうかかわるのかについて考える必要がある。いいものを作れば売れるわけではないので、いかに外部に発信するか、販路拡大が肝になる。ブランドを作ると同時に販路拡大を考えていく必要がある。</p>	4(3)ア
<p>農家と一緒にブランドを作っているが、実際は県外の方々へのブランド力が高くなっていて、地元の方に買ってもらえていない。だだちゃ豆やつや姫は広告効果で地元の方も口にされるが、それ以外の在来野菜等については知らなくて買わない。関東のほうから入ってくるもののほうがいいと思っている方も多い。広告・周知をすることが地元のブランド力を上げ消費につながる。</p>	4(3)ア、イ

⑩その他	項目
<p>企画専門委員会のほうで、まちづくりの基本方針とか基本政策、主要な課題を検討されたが、その内容を情報としていただきたい。我々の現場の課題とギャップがあるか、そういったものを盛り込んで方向を一緒にまとめ上げることが出来ればいい。</p>	⇒企画
<p>10年後に鶴岡はどうなるのかという簡単な青写真のようなものがあればいい。生産者3,100戸の組合員がいるが、シミュレーションの中でどうしていくか、現場に訴えるときにロジックに説明・検証ができる。</p>	⇒企画
<p>わかりやすいことは大事なこと。この9つの着眼点を市民憲章に関連する順番に並べ直したらわかりやすくなるのでは。</p>	⇒企画
<p>中小企業に対する金融面での支援は、具体の計画でもさらに進めていただきたい。中小企業は鶴岡で大半を占めているので、関係機関と一緒に支援していきたい。</p>	5(1)エ
<p>食文化に関しては、鶴岡に来て特徴のある食材を食べていただき、その後の販路につなげていくことが必要である。地元の食材を目玉にして提供している飲食店が意外と少ない。地域のもものは地域で食べるのが一番理に適っている。</p>	⇒企画 4(3)イ
<p>農商工連携に関して、鶴岡市は養豚に関連する企業が連携し、庄内ではかなり大きな産業として成り立っている特異な地域であるが、畜産業の中で養豚業の記述が少ない。堆肥を作物栽培に循環させる取組みも行っている。</p>	4(2)ウ
<p>農林水産部門の「農産物の付加価値向上と販路拡大」と商工観光部門の「起業・創業環境の充実」は関連づけられると思う。</p>	4(3)イ 5(3)イ

産業部門に関する他の委員会等からの意見一覧表

(他の専門委員会、地域振興懇談会、市民ワークショップ)

資料4-2

①挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備		節(細節)
市民文教⇒	・慶應先端研は、最先端技術の発明、大手企業や研究機関の誘致などすばらしい成果をあげ、鶴岡市が国内外に誇れる唯一の機関であるため、引続き応援する。	
市民文教⇒	・企業誘致を進めるため企業に対する既存の税の優遇や制度を見直す。	
市民文教⇒	・人口減少による人手不足を逆手にとって、労力が必要な農業・介護・サービス業等でロボット化、AI、ドローンを導入する。	
市民文教⇒	・首都圏や市内の食に困っている人に新鮮な野菜を分けて、フードバンク事業として鶴岡をPRする。	
市民文教⇒	・首都圏在住の市職員が鶴岡のセールスマンとして活動するなど、市民のネットワーク網を生かし鶴岡をアピールする。	
厚生 ⇒	・介護休暇の取得普及を図り、地域全体で老々介護の対策を図る。	
市民WS⇒	・体験型のイベントを増やし鶴岡の魅力を知る機会を増やす。	
市民WS⇒	・地元の人、他地域から訪れた人も気軽に宿泊できる施設を増やす。	
市民WS⇒	・技術を学べる学校をつくり、中小企業との連携で活性化する。	
市民WS⇒	・多くの人に興味を持つ投資先・仕事づくりにつながる環境をつくる。	
市民WS⇒	・SNSや情報誌だけではなく、補助金等を活用し、観光情報や挑戦・投資している人の声を発信する。	

②人づくりによる人材の確保		節(細節)
厚生 ⇒	・若者が喜んで農業に従事できる施策を講じる。	
厚生 ⇒	・地元を知る高齢者の地域指導者を地元企業が受け入れ、企業内の教育・啓発を行う。	
社会基盤⇒	・「地元に戻っても仕事がない」という心配を解消し、帰りたいと願う子どもたちが帰ってこれるような地域をつくる。	
市民文教⇒	・どのような人材を育成するかを地域が考え、後継者を育てる。	
市民WS⇒	・新しい企業をどんどん増やしていくゾ♪	
市民WS⇒	・つるおかLOVE♥を増やすため、地域の歴史・文化・産業を知る機会を増やすゾ!	

③交流人口を増やす施策の実施		節（細節）
市民文教⇒	・中古住宅の賃貸化、産業の振興、航空運賃を安くするなど住みやすく、鶴岡市内に留まってくれるようなまちをつくる。	
市民文教⇒	・交通網の整備を進め、独自の産業を振興し、交流人口を増加させる。	
市民文教⇒	・日本遺産である「出羽三山生まれかわりの旅」「サムライゆかりのシルク」を両輪に鶴岡の魅力を発信する。	
市民文教⇒	・魅力的な観光資源を生かしつつ、新たなアクティビティや大自然を生かしたレジャーを創設する。	
厚生 ⇒	・「若者が住みたい、ここで働きたい」と願う魅力あるまちにするため、具体的に話し合う場を設け、地元に着定してもらおう。	
厚生 ⇒	・郊外地の森林・農業などを積極的に提供する。	
厚生 ⇒	・産学連携に基づく技術者の育成、企業の自立的事業展開を促進する。	
社会基盤⇒	・交流人口拡大には観光施策しかないことを念頭に、どうすれば地域の魅力を皆で共有できるのか議論を図る。	
社会基盤⇒	・滞在型のフォーラムや道案内システムなど、交流人口拡大に寄与するシステムを構築する。	
社会基盤⇒	・生活動線の交通網だけじゃなく、観光客の目線に立った交通網の整備	
社会基盤⇒	・せっかくある資源を活かせるように、情報とかアクセスしやすいようにする	
社会基盤⇒	・鶴岡市も広いので、温海から羽黒とかを何日かの体験プログラムとかで周る	
社会基盤⇒	・鶴岡の観光を見ている限り、いろんな所で出羽三山だったり、加茂水族館だったり、全部バラバラに観光をPRしているのか、鶴岡市の観光というより一か所一か所が観光のPR	
社会基盤⇒	・集中的に観光をPRするなら専門の部署を作った方が良い。	
社会基盤⇒	・交流人口の施策としての観光が今はちょっとバラバラなのはという話が出たが、ターゲットをある程度想定して、こういう人にはこことこことこを見てほしいとか、外国人にはこういうコースを用意するとか、インターネットでも見れるし、パンフレットにもあるし、宿泊施設の方にも徹底しているとか。東京から来る方にはこういう所。初めて来る方にはこういう所をみてほしいとか、きちっとした方向みたいなものが取り次がれていると、それぞれの観光地が自分の所はこういう役目を果たそうとかそういう発想も出てきて、結果的	

	にはより一体感のある観光地に外から見ると見えるのではないか。	
社会基盤⇒	・いろいろなプログラムを作っていく、提供できるというのが必要	
社会基盤⇒	・そういう時にどういうことを発信していくかというのは個々のところに任せないで、やっぱり鶴岡市は観光では今年はこのように力を入れている、その為にあなたの所はどういう事ができますかねという。三十三観音の今年はあるが、平成最後のと銘打って、平成終わるのでああそうだなとか。	
社会基盤⇒	・自転車活用について先進事例等参考・導入するとともに、シェアサイクルとWiFiの構築をセットにして観光客の行動範囲を広くしうるシステムの構築を図る。	
市民WS⇒	・若い世代が意欲を持ち、発想を大切にし主体性を持ってイベント、店、企画を創出し実行する。	
市民WS⇒	・車以外の交通網を整備して日本中の都市と行き来しやすくする。	
市民WS⇒	・みんなが宣伝大使という意識を持ち、「鶴岡」というブランドを発信し、新しいモデルコース(アウトドア向け、歴女向け、パワースポット)をつくる。	

④若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

節(細節)

厚生 ⇒	・若者が戻ってきたくなる地域づくりを目指す。	
厚生 ⇒	・経済の域内循環を高める施策を図る。	
厚生 ⇒	・雇用の創出や地域内経済の循環をつくる。	
厚生 ⇒	・最低賃金の向上を図る。	
市民WS⇒	・介護もして仕事も続けられる社会にする。	
市民WS⇒	・地方の中小企業の活性化を図って賃金を上げていく。	
市民WS⇒	・バス、タクシー、JRなど公共交通手段を充実させて子どもや高齢者、障害者がまちに出やすくする。	

⑤内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

節(細節)

市民文教⇒	・外国人から見た、鶴岡の自然と歴史、文化の価値を積極的に海外に向けて発信する施策を積極的に展開する。現在、観光や食文化等で活躍している人材や外国人の意見や発想を大切にす。	
厚生 ⇒	・自然と文化の継承のために農業を活性化させる。	
厚生 ⇒	・医療、介護、保育従事者等のワークライフバランスを支援する事業を行うことで、市民がこころ豊かに暮らせる。	

⑥「循環」をキーワードとして重視		節（細節）
厚生 ⇒	・ 高低差の環境を活かす施策。小水力発電の設置等、農業、花き等の生産の推進を図る。	
市民WS⇒	・ 商業 『高度教育機関との連携』	
市民WS⇒	・ 仕事 『循環による職場づくり』	

⑦対応から本格的国際都市へのシフト		節（細節）
厚生 ⇒	・ 高度医療、地域医療、介護など関係者・団体の情報の共有、サービスの向上を図り、国際化に対応できる環境整備を図る。	
厚生 ⇒	・ 日本酒の海外への消費開拓による、国際的な活性化を図る。	
社会基盤⇒	・ 外国人労働者への対応等について企業だけが抱える問題と狭めず、社会で支えていく環境整備を図る。	
市民文教⇒	・ 国際都市に向けて足元を固め、その後様々な国際都市に向けた施策を進める。	
市民文教⇒	・ 鶴岡には、農業、林業等色々あって海も山もあり、それが良いところである。様々な魅力的な資源があるということを認識し、今ある魅力をアピールし、海外から人を呼び込む。	
市民文教⇒	・ 人的交流から経済交流へと発展させていくために、姉妹都市や友好都市などへの生徒の派遣・留学・交流を拡大する。	
市民WS⇒	・ 外国人のニーズによって対応できるように、英語表記の日常化。	
市民WS⇒	・ 外国からの観光客が来やすいように交通アクセスを増やす。	
市民WS⇒	・ お互いの理解のために、コミュニケーションのチャンスを起こす。	
市民WS⇒	・ 最新技術を活用して鶴岡を世界に発信する。	
市民WS⇒	・ 外国からの観光客が購買を促進する。	

⑧コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現		節（細節）
厚生 ⇒	・ 食、文化、健康の3要素における、観光資源を活用し、市域を超えた広域観光の強化によるネットワークの実現する。	
厚生 ⇒	・ 子どもの看護のための休暇促進を図る。	
厚生 ⇒	・ 子育てに対する企業意識の変革を図る。	
厚生 ⇒	・ 子育てしながら就職活動をする人への支援を図る。	

市民WS⇒	・鶴岡の個性(例えば城下町、古いもの、食文化、クラゲ…)を上手に表現(例えば商店街のシャッターペイント、お店の人の話し方(たそがれ清兵衛語とか)や武家衣装)して、地元の人にも観光客にもPRやアピールをしていく。	
市民WS⇒	・鶴岡のそれぞれの課題に誰がホントに困っているのか現状を知る機会として「ミーティング」「研修」「コワーキングスペース」等を増やしていく。	

⑨オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

節(細節)

市民文教⇒	・ロコミで外の人に伝えるためには市民が知ることが必要。食文化も含めて市民へのPRを強化する。	
市民文教⇒	・鶴岡のラーメン文化はすばらしいので、昔ながらの中華そばを鶴岡のソウルフードとして発信する。	
市民WS⇒	・サイエンスシティを目指す。	
市民WS⇒	・自然との共存からオンリーワンを見つける。	
市民WS⇒	・市民一人一人が鶴岡ブランドを発信する。	

⑩その他(地域振興懇談会からの意見等)

節(細節)

厚生 ⇒	・他の地方都市との協働、庄内地方の市町村との協働、民間組織や企業との協働を図る。	
厚生 ⇒	・高度医療、地域医療、介護など関係者・団体の情報の共有、サービスの向上を図り、国際化に対応できる環境整備を図る。	
地域 ⇒	・販売して実感しているが、つや姫は、すごいブランドに成長している。本当にこの米があるから販売でき経営が成り立っていると感じる。全国ブランドのつや姫をうまく活用して「つや姫特区」や「つや姫ロード」などをつくってPRしてみてもどうか。	
地域 ⇒	・ふじの花まつりなど藤島の三大祭は、他からも人を呼ぶイベントとして重要なので、計画に盛り込んでほしい。	
地域 ⇒	・台湾からのチャーター便が庄内空港に発着するという話を聞いた。羽黒地域で国際的なものを、例えば日本遺産になっている羽黒山、松ヶ岡を宿泊付のひとつのコースとして計画してみてもどうか。	
地域 ⇒	・農業人材が非常に不足している。若い人材をしっかり定着支援できるようなシステムづくり。入ってきた若い人を逃さないように、リタイアしないようにしっかり定着してもらうよ	

	うな手法を独自のものを作ってみたらどうか。	
地域 ⇒	・観光客が松ヶ岡に行く手段がないという問題を解決すべきではないか。	
地域 ⇒	・庄内柿の振興策をお願いしたい。体験メニュー（収穫体験⇒樹上脱渋・甘柿の振興、干し柿加工）	
地域 ⇒	・櫛引を含めた市内（庄内）の観光コースを作りたいとずっと前から言っているが実現できていない。	
地域 ⇒	・雨よけハウスのない樹種（りんご・かき）への収穫体験の雨対策が必要。	
地域 ⇒	・若手農業者や新規就農者、研修生などが組織に所属して、必要に応じて農作業を手伝い、ゆくゆくは、組織が一旦農地を預かり、それを個人につないでいく……みたいな組織（団体）があればいいのでは。	
地域 ⇒	・これからは観光が重要。SNSやホームページを使い、全国や世界に発信する。（インバウンド対応）	
地域 ⇒	・農家民宿の活性化。	
地域 ⇒	・櫛引地域での生産品をすべてブランド化。例えば「くしびき」「kushibiki」のロゴ・キャラクター設定なども有効では。	
地域 ⇒	・果樹（農業）振興について、一部の果樹生産地域のみへの支援でなく、庄内柿や園芸など広域的に横断的な支援策が必要ではないか。	
地域 ⇒	・伝統食に必要な山菜の採り手が少なくなっている。	
地域 ⇒	・赤川はアユ釣りのメッカ。それを有効利用した施策を考えられないか。	
地域 ⇒	・朝日はやはり自然を利用した観光振興だと思う。月山筍の収穫体験など、他の地域からも人が来ているようで、六十里越街道をはじめ観光や大平わらび園などの体験はとても魅力があると思う。山のごちそうに温泉なども組み合わせれば、よりお客が来るのではないか。朝日に暮らすお婆さんたちには山の恵みを生かした食文化などの知識があるので、高齢者の経験を活かすやり方をもっと検討してはどうか。	
地域 ⇒	・缶詰加工所が朝日に欲しい。	
地域 ⇒	・農業も林業も工業も商業も後継者不足だと感じている。例えば外部の人など興味のある人から担ってもらうことも考え、農林工商業の教育も充実していけたらどうか。今後担い手がないという事は山間部の農地の荒廃が進むことに繋がるため、後継者の教育に注力しなければならないと思う。	
地域 ⇒	・インバウンドといった海外からの観光客にどんどん地域にも来てもらえるような施策が必要。	

地域 ⇒	・農繁期の対応等、人材バンク的な互助機能の仕組みもあったらいい。	
地域 ⇒	・月山ワインや山ぶどうだけに支援するのではなく、庄内柿にも行政から力を入れてもらいたい。	
地域 ⇒	・近年増えてきた休耕田を活用した体験型農業等をグループや法人で取り組むことに支援できないか。	
地域 ⇒	・朝日は山間地帯で森林の面積も多く雪も多いので、自然の資源を有効に活用できる(木質バイオマスによるセルロースナノファイバー等)工夫はないか。豊かな森林資源を有効に活用する地域振興の施策を検討できれば。	
地域 ⇒	・企業誘致とか若い人が外に出ていかないような対策を優先しないと、高齢者が増え若い人が減っていく地域になるのではと心配している。働ける場所がたくさんあるとか、高校や短大、大学の在り方も見直すなど、若い人が外に出ていかない対策を考えるべきだと思う。	
地域 ⇒	・伝統的なものに若い人が興味を持ってくれないのも課題。	
地域 ⇒	・若年者・高齢者共に住みやすいような地域環境整備は必要では。宅地造成や企業誘致など市全体でも取り組んでいると思うが、朝日でも考えてもらいたい。	
地域 ⇒	・鶴岡がユネスコの食文化都市に認定されて3年も経過するため、伝統食をどのように残すかという施策もあるべきだ。	
地域 ⇒	・若い人たちが楽しんで働ける場、若者のニーズを考慮した働く場をいかに作り上げていくかがポイントになってくるのではないか。	
地域 ⇒	・廃校跡の活用という視点があったが、旧福栄小学校に、松ヶ岡関連の養蚕を取り入れる事業が進んでいるようだ。鶴岡はシルクの街でもあるので、是非大々的に展開してもらいたい。	
地域 ⇒	・農業関係を中心に所得を上げる施策、特に高速道路近隣の施設産業を充実させるべきと考える。	
地域 ⇒	・山大農学部等ともコラボレーションしながら、新「道の駅」などの「出口」を見据え、旧温海高校を活用した高付加価値農業(水耕栽培など)を展開できないかと考えている。	
地域 ⇒	・恋する灯台に認定された鼠ヶ関灯台を活用した企画やPR等もやっていきたい。	
地域 ⇒	・所得がないところに生活が成り立たないわけで、地域の所得を上げるという着眼点も必要ではないか。	